

## たかさご史話 22

### く明治末年の新聞からく

明治時代には、各地でさまざまな新聞が発行されていた。新聞は、当時の世相や社会の動きを知るための貴重な歴史資料となります。

このため、市史編さん室では、県内外の図書館において、積極的に新聞記事の検索と収集を行っています。

今のところ、明治期に高砂市域で継続的に発行されていた新聞は確認されていませんが、明治十七年（一八八四）に神戸で創刊された『神戸又<sup>ゆう</sup>新日報』や、明治三十三年（一九〇〇）から姫路で発行されていた『鷺城新聞<sup>ろじょう</sup>』には、しばしば高砂市域に関する記事が載せられており、明治期に関する分は、ほぼ収集を終えたところですが。

ちなみに、明治時代の最後の年となる明治四十五年（一九一二）の『神戸又新日報』を見てみると、たとえば、当時の加古郡高砂町に電気を供給していた明石電燈会社と住

民との間で、料金をめぐる紛議があったことが報じられているほか、姫路の播磨水力電気会社が供給地域を拡張して、印南郡伊保村や加古郡荒井村にまで電柱の架線工事を進めていたことも記されており、明治末期には電気が一般に利用されるようになっていたことがわかります。

また、同じ頃に加古郡と印南郡との合併問題がしばしば報じられており、当時の政治上の大きな課題だったようです。ただし、加古郡側では満場一致で合併に賛成であるのに対し、印南郡では意見が分かれてまとまらず、結局合併談は棚上げになりました。

今後は、大正・昭和期に関しても新聞記事の検索を進めていき、『高砂市史』の内容を豊かなものにしていきたいと考えています。

（高砂市史編さん専門委員

松下孝昭）